

シード校と各地区選考会の結果

※順位表の黒丸白抜き数字で示した大学が本大会出場権を獲得
※選考会は8人の1万メートルの合計タイム

■シード校 =第57回大会の1～8位

①駒沢大	31大会連続33回目
②中央大	6大会連続33回目
③青山学院大	14大会連続16回目
④国学院大	12大会連続14回目
⑤早稲田大	20大会連続32回目
⑥帝京大	4大会連続18回目
⑦創価大	5大会連続5回目
⑧順天堂大	2大会連続30回目

■関東地区=5月4日 レモンガススタジアム平塚

①日本大	3時間57分10秒99 2大会連続44回目
②東海大	3時間58分12秒32 13大会連続39回目
③大東文化大	3時間58分35秒09 5大会連続47回目
④神奈川大	3時間58分44秒60 2大会ぶり20回目
⑤東洋大	3時間58分51秒88 2大会ぶり33回目
⑥中央学院大	3時間59分42秒29 2大会連続18回目
⑦山梨学院大	3時間59分55秒29 6大会ぶり32回目
⑧専修大	3時間59分55秒94
⑨法政大	4時間0分50秒26
⑩明治大	4時間2分22秒44
⑪日本体育大	4時間2分42秒80
⑫東京国際大	4時間2分58秒28
⑬拓殖大	4時間3分42秒51
⑭芝浦工業大	4時間4分18秒41
⑮立教大	4時間4分30秒24
⑯国士館大	4時間4分46秒39
⑰駿河台大	4時間4分57秒78
⑱東京農業大	4時間4分58秒73
⑲流通経済大	4時間10分12秒01

※城西大は途中棄権者がいたため選考外

■北信越地区=7月4日 佐久総合運動公園陸上競技場

①信州大	4時間14分13秒91 2大会連続17回目
②金沢学院大	4時間15分2秒73
③新潟大	4時間17分5秒76
④新潟医療福祉大	4時間20分31秒79
⑤富山大	4時間32分22秒39
⑥金沢大	4時間37分23秒56
⑦新潟食料農業大	4時間39分26秒14
⑧金沢工業大	4時間52分13秒40

■今後の地区選考会

8月15日 北海道地区(真駒内公園内周回コース)
9月23日 中国四国地区(BalcomBMW広島総合グランド)
9月26日 東北地区(仙台大陸上競技場)

秩父宮賜杯第58回全日本大学駅伝対校選手権大会

開催日 11月1日(日) 主催 日本学生陸上競技連合、朝日新聞社、テレビ朝日、メ〜テレ
コース 名古屋・熱田神宮西門前―三重・伊勢神宮内宮―宇治橋前8区間106.8km
特別協賛 長谷工グループ
協賛 タカミヤ、森永製菓

大会事務局は公式サイトで地区選考会に関する情報を発信しています。QRコードからアクセスできます



■東海地区=6月20日 マルヤス岡崎龍北スタジアム

①愛知工業大	4時間8分30秒01 4大会ぶり20回目
②皇学館大	4時間8分53秒99
③名古屋大	4時間9分2秒98
④岐阜協立大	4時間12分50秒08
⑤中京大	4時間18分31秒70
⑥静岡大	4時間23分22秒24
⑦三重大	4時間29分34秒28
⑧日本福祉大	4時間32分42秒21
⑨岐阜大	4時間34分25秒24
⑩中部大	4時間35分31秒74
⑪愛知大	4時間35分59秒80
⑫南山大	4時間36分44秒85
⑬愛知教育大	4時間42分13秒56

※至学館大と名城大は欠場者がいたため選考外

■関西地区=6月7日 ヤンマーフィールド長居

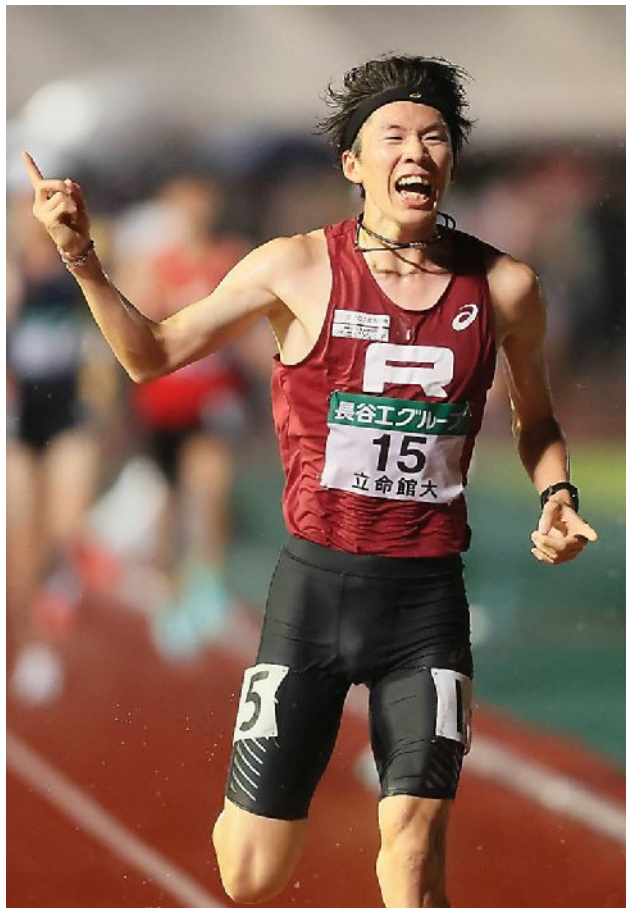
①京都産業大	4時間4分3秒11 2大会ぶり50回目
②大阪経済大	4時間4分6秒89 6大会連続28回目
③関西学院大	4時間5分12秒97 2大会連続15回目
④立命館大	4時間5分14秒21 2大会ぶり37回目
⑤関西大	4時間5分56秒18
⑥龍谷大	4時間12分58秒21
⑦摂南大	4時間15分45秒51
⑧同志社大	4時間18分40秒14
⑨大阪大	4時間19分46秒32
⑩大阪公立大	4時間21分18秒14
⑪神戸大	4時間23分47秒99
⑫京都大	4時間24分38秒69

■九州地区=6月6日 東平尾公園博多の森陸上競技場

①志学館大	4時間14分41秒52 2大会連続2回目
②第一工大	4時間16分27秒14
③鹿児島大	4時間16分33秒26
④日本文理大	4時間20分44秒16
⑤長崎国際大	4時間23分27秒24
⑥九州大	4時間25分17秒32
⑦福岡大	4時間28分44秒53
⑧長崎大	4時間46分1秒04

伊勢路の熱気へ カムバック

秩父宮賜杯第58回全日本大学駅伝対校選手権大会の地区選考会は5月に始まり、全8地区のうち5地区の出場校が決まった。前回走れなかった伊勢路に戻ってくる注目のチーム、選手を紹介する。



関西地区選考会、4組1位でゴールした立命館大の水野颯也(右)と小郷慎太郎(左)

「2大会ぶりとはいえ、初めて走るメンバーが多いので、初出場のつもりで挑戦したい」と山菅監督。途切れた歴史を再びつなぐ挑戦が、ここから始まる。(井上翔太)

連続出場が「24」でストップしてから、わずか1年で立命館大が伊勢路に戻ってくる。6月7日の関西地区選考会で、上位4校に与えられる本戦切符を4位でつかんだ。選考会では各校10人が4組に分かれて1万メートルを走り、上位8人の合計タイムで出場権を争った。立命館大は3組を終えた時点で暫定5位。最終4組での逆転を呼び込んだのは、2年生の水野颯也(愛知・津島東)だった。スタート直後から先頭に立ち、チームメートの柏木優希(智弁学園奈良カレッジ)と児玉航洋(滋賀・水口東)が続いた。「2人を引っ張って、いいタイムで走らせたい」という思いだったと水野。最終3分を切るペースで、1000メートルのラップを刻んだ。8000メートルや15000メートルとする水野にとって、1万メートルは前年の選考会以来2回目。だが、距離が長くなることへの不安を感じさせ

立命大

「実力主義」競い合い支え合う

なかった。5000メートルを過ぎても余力を残し、終盤に入ってから後続を引き離した。ラスト1000メートルは2分50秒。全体トップの29分20秒68で、チームを通過圏内へと引き上げた。「タイムに関しては、自分でもびっくりしました」。1年前は2組を任されたが、インパクトを残せなかった。当時はアキレス腱を痛めており「本番の前週は、計10キロぐらいしか走れなかった」。25大会ぶりに本戦出場権を逃した要因の一つは、水野のような人が相次いだことだった。山菅善樹監督は選手へのアプローチ方法を変えた。これまでのコーチングは「等しくみんなに提供する」ということを大事にしてきた。ただ、「一定の実力主義も必要なのではないか」と考え、例年9月の合宿を選抜制に変更した。選ばれなかった選手は滋賀県草津市のキャンパスで強化練習に励んだ。競争意識を高める狙いもあった。「レベルの差がある中、みんなが同じことはできない。道は分かれるけど、最終的には一つのところに着地するということを、みんなに丁寧に説明してきました」。加えて、今年はチーム運営のあり方も見直した。これまで、合宿の手配や大会のエントリーなどを一手に担っていた山菅が、この春に卒業した。そこで主将の飯田虎志朗(愛知・豊川)を中心に、一人ひとりが「自覚と責任」を持てる組織づくりに励んだという。具体的には「合宿」「コンディショニング」「競技」「財務」「広報」「データ」などのグループをつくり、それぞれに全学年の選手を入れた。「普段走ることができないのは、こういう仕事をする人がいてくれるから」というのを、知ってもらいたかった。走り場で貢献できない選手に、活躍の場を与えることもできる。飯田は体制変更の狙いをこう語る。また各グループに各学年の選手がいることで、4年生が卒業しても運営を引き継げる体制を意識した。

1年生が刺激 チーム底上げ

東海地区選考会で4組を走り、2着でゴールする愛知工大の岩田玄弥(左)と溝脇正彰(右)



2大会ぶり50回目の伊勢路出場を決めた京産大は、1年生2人の存在がチーム力を底上げしている。小郷紘矢(徳島科学技術)と重倉斗貴(愛媛・今治北)。関西地区選考会ではチーム上位8選手の中で、小郷は4番目、重倉は7番目のタイムで

京産大

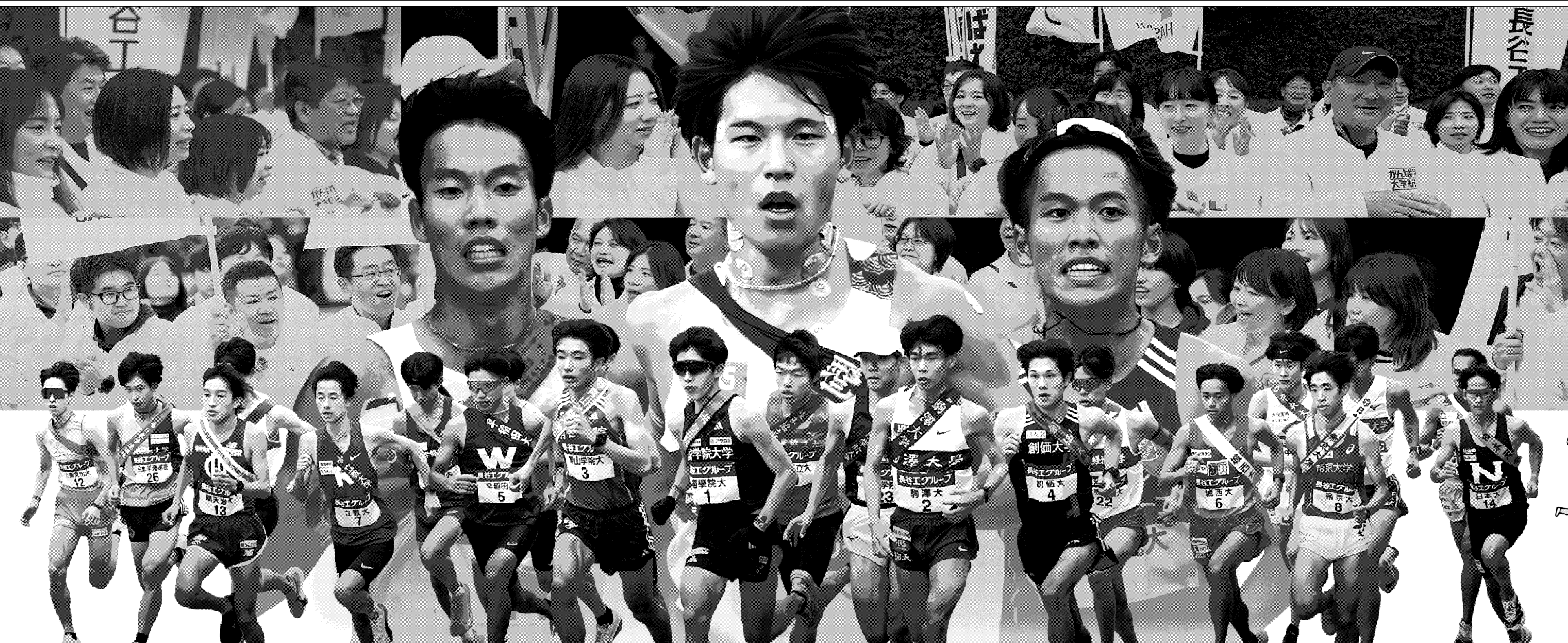
チームの1位通過に貢献した。4年生の主将・藤田大輝は「速い1年生が入ってきて刺激を受けている。京産大は1986年の第17回大会で、今も関西唯一となる優勝を飾ったが、今のチームに1万メートルを28分台で走れるトップ級はいない。妹尾誠監督は「みんなが力を発揮しないと勝てない」と話す。小郷が「全国で通用する選手になる」と言え、重倉は「小郷君には負けたくない」ときっぱり。高校時代から四国で切磋琢磨してきた2人の成長が古豪復活の鍵を握る。(伊藤雄平)

愛知工大

まで締め、最終4組の逆転劇につなげた。原と豊田は昨年、本大会の東海学連選抜メンバーに選ばれ、豊田が1区、原が2区を走った。「全日本を走ることで自信がついた」と原。選考会では、豊田と目配せを交わしながら、積極的に仕掛けた。4組で2位に入り、逆転優勝の原動力となった岩田玄弥(愛知・津島東)は、昨年まで3年連続で東海学連選抜に選ばれたエースだ。昨年は3区を走った。「どの道走っても声援が途切れないのがすごい」。全日本で走る快感を知っている。以前は選手が持つ目標の高低にばらつきがあったが、本大会に向け、チームの士気は高まりつつある。4年生の主将・近藤佑亮は「東海地区代表の常連に復活する途中に今はいる」と話す。(山田佳毅)

学連選抜常連 頼れるエース

愛知工大が4年ぶりに伊勢路へ帰ってくる。現チームに、学連選抜に入った選手はいない。本大会に出た選手はいない。だが、大会の熱気を肌で感じた選手はいない。地区代表の1枠を勝ち取る原動力となった。



長谷工グループ
HASEKO
**がんばれ
大学駅伝**

長谷工グループは、全日本大学駅伝を応援しています。
「X」の長谷工グループ 全日本大学駅伝応援アカウントでも応援中!



第58回 全日本大学駅伝
伊勢路で掴め!日本一。
伊勢で決まる、日本一。